

平成28年度 学校評価実施報告書

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(前年度評価を踏まえた) 自校の取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・つきたい力を明確にした言語活動の充実した授業 ・年二回の授業研究	「先生は教え方を工夫し、わかりやすい授業にしている。」 「授業中は先生の話をしっかり聞いている。」
	家庭学習の習慣化	「未来スタディ学習」「サポート学習(定期テスト前学習)」「夏休みサポート学習会」の実施	「自分で予習や復習など家庭学習ができている。」 「学校は補充学習など、学力を高めるために努力している。」
	読書の習慣化	・朝読書の確実な実施 ・図書館の利用の推進	「朝読書や図書館などで本を借りて、読書に積極的に取り組んでいる。」
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・生徒会が中心となったあいさつ運動の実施 ・「心の通った指導」「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」を行い規範意識の育成を行う	「学級活動や学校行事に協力して取り組んでいる。」 「自分から進んで、あいさつをしている。」 「学校のきまりや公共のマナーを守っている。」
健やかな体	自他を大切にできる態度の育成	生徒会による「チェンジウイーク」(遅刻点検、服装の呼びかけ、美化活動等)の実施	「遅刻をしない、ベル着をするなど、時間を守ることができる。」 「友達や家族を大切にしている。」 「早寝、早起き、朝食など規則正しい生活ができている。」
独自の項目	小中連携教育の推進	小中合同研修会の実施 教務主任会の定期開催 研究主任会の開催	研修会、教務主任会、研究主任会の反省
	情報発信の充実	学校だより・ホームページ・学年だより・学級通信の発行	「学校だより、学級だより、学年だよりの発行やホームページで、学校生活の様子が発信されている。」



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年11月22日、12月8日
	評価者・組織	運営委員会、職員会議
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「先生は教え方を工夫し、わかりやすい授業にしている。」という項目では、「そう思う」、「だいたいそう思う」を合わせた肯定的な評価は生徒は90%以上、保護者は約85%になる。「授業中は先生の話をしっかり聞いている。」の項目は、生徒、保護者ともに90%以上が、肯定的である。	学習規律の確立、わかりやすい授業を目指し授業改善に学校全体として取り組んできたことが成果として現れている。学習確認プログラムの指数も改善されている。	ICT機器を整備し、新しいICTを活用した授業を研究し、わかる授業に向けての授業改善を図る。
予習復習になど家庭学習に関する項目では、肯定的な評価は生徒は約60%、保護者は約55%である。補充学習に関する項目では、肯定的な評価は生徒は約60%、保護者は約55%である。	家庭学習が定着していない生徒が多く見られる。家庭学習を定着させるための取組が必要である。補充学習の取組も評価は低く、課題が見られる。	学習確認プログラムの予習シート、フォローアップシートを活用し、家庭学習の定着を図る。
朝読書、図書館利用など読書に関する項目では、肯定的な評価は生徒は約59%、保護者は約46%である。	読書が定着している生徒の割合は少ない。朝読書については、その時間に着席できていない生徒もあり、課題がある。	朝読書の時間をしっかりと確保できる時間に登校できるように指導する。図書館を活用した授業を研究する。
学級活動などの協力性に関する項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに90%以上である。あいさつに関する項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに80%以上である。規範意識に関する項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに約85%である。	学級活動などの協力性、あいさつ、規範意識ともにしっかりとできている生徒が多い。生徒会の取組の充実、規範意識の育成により、公共の精神が育まれている。	生徒会本部の取組でも今までの生徒会活動を引き継いで行けるように指導する。規範意識の育成に向けて、継続して指導する。
時間を守ることにに関する項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに90%以上である。「友達や家族を大切にしている。」という項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに約98%である。	時間を守ることでできる生徒はアンケートでは多いが、ベル着の徹底に比べると、朝の遅刻については守れていない生徒が増えている。友達や家族を大切にしようという意識はたいへん高い。	各クラスでの遅刻指導、朝の登校時の校門指導を行う。
小中の教務主任会を定期的に、研究主任会を必要に応じて開催した。小中合同研修会の充実させることができた。	小中の教務主任会、研究主任会を充実させることで、小中一貫教育を前進させることができた。	来年度に向けての新しい取組として、教科、分野別の小中合同会議を実施する。
学校の情報発信に関する項目では、肯定的な評価は生徒は約93%、保護者は約86%である。	学校の情報発信については高い評価を得ている。ホームページが充実し、各たより等も定期的に発行できている。	各たより、ホームページの充実を図る。



学校関係者評価	
評価日	平成29年2月27日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
学校がわかりやすい授業のために努力をしていることはよくわかる。授業と課外での活動の両方を充実させることを意識して欲しい。	授業参観の機会に積極的に参観する。
基礎・基本を定着させるために、学校での補充学習を充実させほしい。	補充学習のボランティアに地域が協力していく体制づくりを行う。
ケイタイやスマートフォンの普及し、使用する時間が増えており、それが原因で読書の時間が減っている。	ケイタイやスマートフォンの正しい使い方を保護者が指導する必要がある。
あいさつについては気持ちよくできている生徒が多いが、一部できていない生徒もいるので、もっと意識を高めてほしい。	PTAの朝の街頭指導であいさつを日常的にできる状況を作っていく。
「友達や家族を大切にしている。」という項目で、評価が高いのは大変良い。	保護者、PTA、地域が連携して、友達や家族を大切にできる子どもづくりを行っていく。
小学校ではあいさつができるように指導しており、中学校との指導の共通点も多くなっている。	小学校、中学校が幅広く意見交換する場面を大切にしていこう。
PTAメール配信を必要に応じて、活用してほしい。	ホームページなどでの学校の情報発信の充実により、引き続き取り組んでほしい。

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

学校名(京都市立音羽中学校)

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた)年度末までの取組	(取組結果を検証する)アンケート項目・各種指標
確かな学力	授業改善	・つきたい力を明確にした言語活動の充実した授業 ・年二回の授業研究	「先生は教え方を工夫し、わかりやすい授業にしている。」 「授業中は先生の話をしっかり聞いている。」
	家庭学習の習慣化	「未来スタディ学習」「サポート学習(定期テスト前学習)」「夏休みサポート学習会」の実施	「自分で予習や復習など家庭学習ができています。」 「学校は補充学習など、学力を高めるために努力しています。」
	読書の習慣化	・朝読書の確実な実施 ・図書館の利用の推進	「朝読書や図書館などで本を借りて、読書に積極的に取り組んでいる。」
豊かな心	「公共の精神」に基づく態度の育成	・各活動で話し合いや協力の場を積極的に作る ・生徒会が中心となったあいさつ運動の実施 ・「心の通った指導」「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」を行い規範意識の育成を行う	「学級活動や学校行事に協力して取り組んでいる。」 「自分から進んで、あいさつをしている。」 「学校のきまりや公共のマナーを守っている。」
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	生徒会による「チェンジウイーク」(遅刻点検、服装の呼びかけ、美化活動等)の実施	「遅刻をしない、ベル着をするなど、時間を守ることができる。」 「友達や家族を大切にしている。」 「早寝、早起き、朝食など規則正しい生活ができています。」
独自の	小中連携教育の推進	小中合同研修会の実施 教務主任会の定期開催 研究主任会の開催	研修会、教務主任会、研究主任会の反省



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月21日、2月23日
	評価者・組織	運営委員会、職員会議
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
「先生は教え方を工夫し、わかりやすい授業にしている。」という項目では、「そう思う」、「だいたいそう思う」を合わせた肯定的な評価は生徒は約86%、保護者は約82%になる。「授業中は先生の話をしっかり聞いている。」の項目は、生徒、保護者ともに90%以上が、肯定的である。	1回目と比べて、少し評価が下がっている。学習規律の確立、わかりやすい授業を目指し授業改善に学校全体として取り組んできたが、さらに授業研究をすすめる必要がある。学習確認プログラムの指数は全学年ともに改善されてきている。	わかる授業を目指した授業改善のために、計画的な授業研究が必要である。日常的に教職員での授業参観がもっと、活発になれば良い。
予習復習になど家庭学習に関する項目では、肯定的な評価は生徒は67%、保護者は57%である。補充学習に関する項目では、肯定的な評価は生徒は約78%、保護者は約65%である。	1回目と比べて、評価が下がっている。定期テスト前のサポート学習会、3年土曜学習などの参加者も増えている。しかし、家庭学習が定着していない生徒が多く見られる。補充学習の取組も評価はも、まだ課題がある。	基礎・基本の定着をさせるために、家庭学習の習慣化と補充学習の充実が必要である。計画的に宿題を出し、点検を行う活動を取り入れる。
朝読書、図書館利用など読書に関する項目では、肯定的な評価は生徒は約63%、保護者は約50%である。	図書室のリフォームが進み、図書室を利用する生徒が増え、評価は上がっている。朝読書については、その時間に着席できていない生徒もあり、課題は改善されていない。	朝読書の時間を確保できる登校指導が必要である。図書館活用のために、図書司書と連携し教科での活用をさらにすすめていく。
学級活動などの協力性に関する項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに87%以上である。あいさつに関する項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに80%以上である。規範意識に関する項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに約83%である。	学級活動などの協力性、あいさつ、規範意識ともにしっかりとできている生徒が多い。生徒会の取組の充実、規範意識の育成により、公共の精神が育まれている。	生徒会活動や学校行事の充実を継続させていく。規範意識を高める取組も継続して行う。
時間を守ることに 関する項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに92%以上である。「友達や家族を大切にしている。」という項目では、肯定的な評価は生徒、保護者ともに約96%である。	時間を守ることでできる生徒はアンケートでは多いが、ベル着の徹底に比べると、朝の遅刻については守れていない生徒が増えている。友達や家族を大切にしようという意識はたいへん高い。	各クラスでの遅刻指導、朝の登校時の校門指導を充実させていく。
小中の教務主任会を定期的に、研究主任会を必要に応じて開催した。教科、領域ごとの小中合同会議を企画した。	教科、領域ごとの小中合同会議を行い、来年度の方向性を確認するなど、小中一貫教育の取組を組織的に前進させることができた。	今年度実施した教科、領域ごとの小中合同会議の成果を生かし、具体的な取組を実践する。



学校関係者評価	
評価日	平成29年2月27日
評価者 (いずれかに○)	○学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策 に参観する。
学校がわかりやすい授業のために努力をしていることはよくわかる。授業と課外での活動の両方を充実させることを意識して欲しい。	授業参観の機会に積極的に参観する。
基礎・基本を定着させるために、学校での補充学習を充実させほしい。	補充学習のボランティアに地域が協力していく体制づくりを行う。
ケイタイやスマートフォンの普及し、使用する時間が増えており、それが原因で読書の時間が減っている。	ケイタイやスマートフォンの正しい使い方を保護者が指導する必要がある。
あいさつについては気持ちよくできている生徒が多いが、一部できていない生徒もいるので、もっと意識を高めてほしい。	PTAの朝の街頭指導であいさつを日常的にできる状況を作っていく。
「友達や家族を大切にしている。」という項目で、評価が高いのは大変良い。	保護者、PTA、地域が連携して、友達や家族を大切にできる子どもづくりを行っていく。
小学校ではあいさつができるように指導しており、中学校との指導の共通点も多くなっている。	小学校、中学校が幅広く意見交換する場面を大切にしていける。

の 項 目	情報発信の充 実	学校だより・ホームペー ジ・学年だより・学級通信 の発行	「学校だより、学級だより、 学年だよりの発行やホーム ページで、学校生活の 様子が発信されている。」	学校の情報発信に関する 項目では、肯定的な評価 は生徒は約90%、保護 者は約82%である。	学校の情報発信については 高い評価を得ている。学級、 学年、学校だより、ホーム ページを定期的に発行し、充 実している。	各たより、ホームページの 充実を図る。	PTAメール配信を必要に 応じて、活用してほしい。	ホームページなどでの学 校の情報発信の充実に、 引き続き取り組んでほし い。
-------------	-------------	------------------------------------	-------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------	------------------------	------------------------------	-------------------------------------------------

3 総括・次年度の課題

<p>全教職員が意識して、「きまりを守る」ことを徹底して指導し、規範意識の向上が図られ、生徒会活動を中心に生徒の自主的な活動もできるようになっている。生徒、保護者ともに「楽しい学校生活を送っている」という評価は高い。「挨拶」や、「きまりを守る」ことができ、基本的な生活習慣が身に付いている生徒が増えている。また、学習規律も確立しており、落ち着いて授業に取り組むことができる。教科の授業、道徳や学活でもお互いに意見を出し合い、協働して取り組む姿勢も育ちつつある。生徒会活動や行事などでも、お互いを尊重し、支えあい、励まし合う姿が見られ、協力して物事を成し遂げようとする姿勢が育っている。</p> <p>基礎・基本を定着させるための家庭学習や補充学習の充実、読書の習慣が今後の課題である。</p>
